## 第２分科会

### 高大連携によるキャリア教育
### －大学、高校双方にとって持続可能で有意義な連携のあり方とは？－

［報告者］　宮越　敬記（京都市立塔南・開建高等学校 教頭）
［報告者］　東山　加奈子（龍谷大学 高大連携推進室 課長）
［コーディネーター］　上杉　まり（京都市教育委員会 指導部学校指導課 指導主事）
［コーディネーター］　竹田　昌弘（京都市教育委員会 指導部学校指導課 参与）

龍谷大学と開建高校は高大連携に関する協定を結び、龍谷大学による開建高校の生徒に対する探究型プログラムの企画・運営や探究型授業における学習支援等を進めている。それらの取組の状況を共有し、大学と高校双方にとって持続可能で有意義な連携のあり方について議論する。

#### 概　略

形式的な連携にとどまらず、意義のある高大連携推進のためには、高校・大学双方が直接対話し、お互いのニーズや期待を理解し協力することで、生徒の学びを支える役割を果たすことが不可欠である。

龍谷大学と開建高校は高大連携に関する協定を結び、龍谷大学による開建高校の生徒に対する探究型プログラムの企画・運営や探究型授業における学習支援等を進めている。分科会では、龍谷大学と開建高校の連携の取組について、大学、高校双方の立場からの報告を行った後、大学と高校双方にとって持続可能で有意義な連携のあり方についてグループ協議を行った。協議題は以下の通りである。

①現在実施している高大連携の取組とその課題の共有
②大学、高校双方にとって持続可能で有意義な連携のあり方

#### 全体討論の内容

主に以下の内容について全体討論が行われた。

①　高大連携のあり方

高校と大学の連携を深めるには、お互いを「お客さん」と見ない関係が重要であり、高校と大学が互いのニーズを理解し、ともに協力し、生徒の学びを支える役割を果たさなければならない。

生徒が学びの楽しさを実感し、自分の学びがどのように将来に繋がるのかを生徒が理解できるような高大連携のあり方を考えていくことが必要であるという意見が出た。

②　持続可能な連携の方法

持続可能な高大連携には負担も伴い、なかなか前進しないという参加者からの意見に対して、登壇者からは、双方の思いやビジョンを共有するための「継続的な対話」が必要であることが繰り返し強調された。また、連携の際には、形式的な連携ではなく、実際の生徒たちの学びにどう繋がるか、

そしてその学びのプロセスを高校・大学それぞれがどうサポートしていくかに焦点を当てるべきだという意見もあった。

③　選抜と教育の連携

大学入試選抜においては、選抜がただの競争で終わるのではなく、大学がどのような生徒を求めているか、またその生徒たちがどのような学びを大学で深めていくのかを明確にし、教育のプロセスとして連携していくことが求められるのではないかという意見や、例えば探究活動や発表会などを生かして選抜方法を工夫することも意見としてあった。

## 到達点と今後の課題

持続可能で有意義な高大連携のためには、継続的に対話を重ねながら、形式的な連携ではなく生徒の学びを主眼に置いた、高大一体となったキャリア教育推進の姿勢が必要である。今後継続的に対話を行い共同プログラムを実施していく中で、さらに連携を深めていきたい。また、京都のように多くの大学があるところでは、コンソーシアムなどの大きな枠組みが、各高校・各大学のニーズを集約し、ニーズに合う形でマッチングしていくようなプラットフォームとなり高大連携を進めることで、より効果的な連携につながる可能性も考えられる。地域の大学間で連携し、様々な選択肢を提供することで、高校生にとってより多様な進路の選択肢が増え、大学側の生徒募集にも良い影響を与えることが期待される。

スライド 1

## 第2分科会

### 高大連携によるキャリア教育

―大学、高校双方にとって持続可能で
有意義な連携のあり方とは？―

スライド 2

## 分科会の流れ

15:30～16:40
- 開建高校・龍谷大学の紹介
- 開建・龍谷の連携による
  キャリア教育について
- 質疑応答

16:40～17:30
- グループ協議
- まとめ

スライド 3

## 京都市立開建高等学校（令和5年4月開校）

設置学科：ルミノベーション科(その他普通教育を施す学科)
募集定員：240名
教育目標：より良い未来をめざし、個性を活かして社会を協創する生徒の育成

地域社会を学ぶのではなく、"地域社会で学ぶ学科"です。
地域で見えた課題に対して、１つではない答えを自分たちのプロジェクトとして探究します。
各分野のプロの方との対話・協働による体験的・実践的な学びを行います。
学校内の他者だけでなく、地域の方々とも対話し、多様な価値観を共有します。

※文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業」の研究指定校（R4～R６年度）
※文部科学省「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」の指定校（R6年度）

スライド 4

## カリキュラムの特徴

①授業が変わる ～学びを楽しむ～
②魅力あふれる京都をフィールドに実践する
探究活動 ～学びと社会をつなぐ～
③生徒が夢中になれる課外活動 ～より深く、より広く～

広い教室は４つに区切って使用することもでき、少人数での学びも可能です。

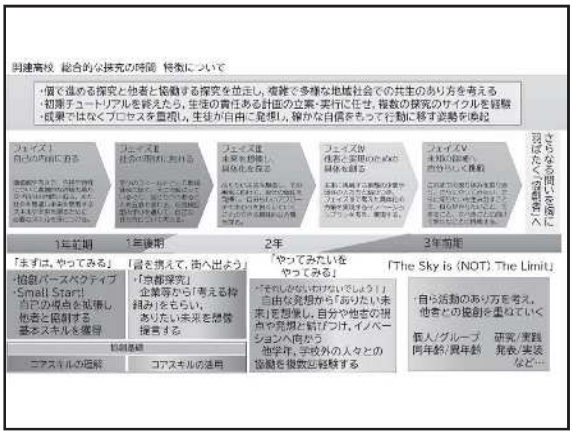
16m×16m(普通教室4個分)の教室では、80名の生徒と複数教員が共に学びます。

L-podを活用した多様な学び
- チームによる指導
- 生徒が学び方を選択
- 生徒が主体的に知りたい、学びたいと思えるしかけづくり

京都をフィールドにした探究活動
- 京都の大人が挑戦するより良い未来づくりに高校生としてできることに挑戦
- 協働して新たな価値を創造する挑戦
- ホンモノに触れることで社会との関わり方やはたらくことへの気づき

主体的に取り組む課外活動
- 生徒たちが考える部活動の在り方
- 自分たちで企画や運営を行うやってみたいを形にするプロジェクト

スライド 5



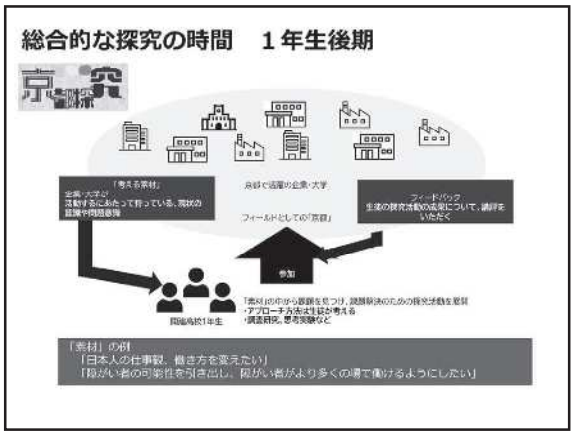

スライド 6

## 総合的な探究の時間　１年生前期

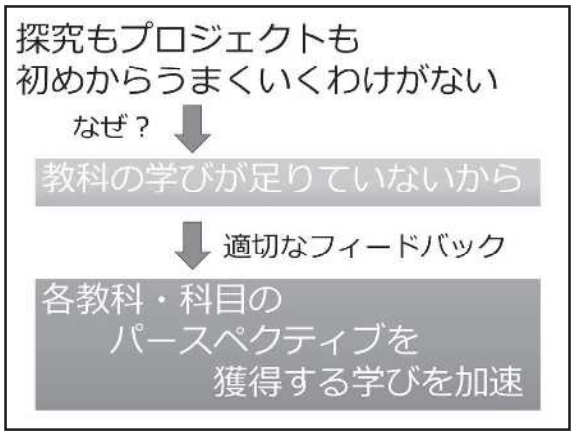
各教科・科目の独立した世界のルールや内容を理解するだけではもったいない！！教科・科目の学びから、この世界の見方・考え方を学べるはず！！

「特定のパースペクティブだけでは捉えきれない広範かつ複雑な文脈や事象を多様な角度から俯瞰して捉える」ことを各教科・科目の学びで発揮することで、各教科・科目のパースペクティブがより強固なものとし、深い学びにつなげる

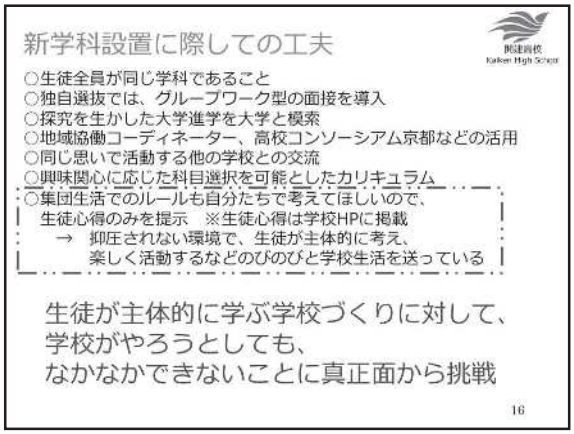
スライド 7



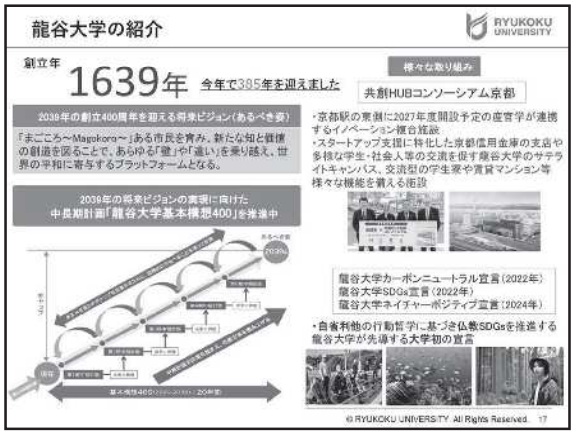

スライド 8




スライド 9

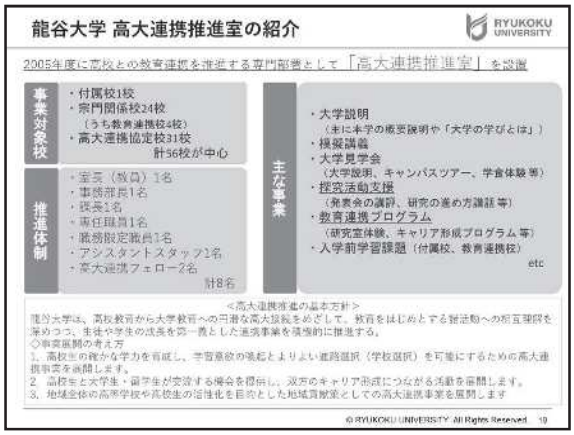



スライド 10




スライド 11

スライド 12



スライド 13

## 高大連携の取組

連携協定の内容
①大学による高校の生徒が参加できる探究型プログラムの企画・運営
②大学による高校の生徒への授業（総合的な探究の時間・探究型科目）における学習支援
③大学による高校の生徒への部活動における指導助言
④大学による高校の生徒が参加できる地域交流イベントの企画・運営
⑤その他双方の交流・発展に関して必要と認める事項

スライド 14

## 高大連携接続プログラム

令和６年度実施計画　※開建高校キャリアウィークの一環として実施
７月２４日　瀬田キャンパス
○大学での学びについて　（高大連携推進室）
○農学部・食品栄養学科での学び　（農学部）
○先端理工学部の特徴について　（先端理工学部）
７月２５日　深草キャンパス
○文系学部による探究型学習　※２学部を選択受講
テーマ例
「文学部での学び－ことばと文字のもつ力とは－」
「もし、あなたが逮捕されたら」（法学部）

スライド 15

## １年生の感想（抜粋）

・あまり知らない分野だったけれどどのような風じなのかイメージを掴むことができました。
・○○学部のことなんて何も知らなかったけど話をきいて興味を持てました。
・思ってた○○学部じゃなかった（いい意味で）。
・私は文系なので理系は関係ないと勝手に思っていたけど今回理系についての話を伺って理系の中にもさらに種類があって興味があるものもたくさんあることを知れました。
・この勉強がやりたいとは思わなかったけど、聞いていて少し楽しかった。
・自分にはあっていないと思った

自分の持っているイメージだけで判断している生徒が非常に多い

「知らないものからは選べない」ため、まずは足を踏み入れることが必要

話を聞くだけでなく、その領域の学びをすることによって、より理解が深まり、適切な判断ができるようになってほしい

スライド 16

## １年生の感想（抜粋）

・これもまためっちゃ難しかったけど（開建の）先生と討論している様子がすごくてこのくらい極めれたら良いと感じれられた。
・まさに自分の想像するTHE理系の学部だった。物理なんて計算を山ほどするだけのディストピアだろと思っていたが、その計算がどのような目的に使われるのかが明確なだけでこんなにもわくわくする教科なんだと知った。
・院生が話してくださったときは、そのものが好きで愛しているという熱意が伝わってきて引き込まれました。ここまで自分の好きなことにのめりこんで、研究して、話せるようになりたいと思いました。いつかこんな大学生になりたいです。
・実際に学生さんのプロジェクトの話を聞いてその意欲的な姿勢がすごく尊敬できました。

好きなことを追求する姿は開建の目指す姿

それを全力でやっている人の話は生徒たちに魅力的

遠い姿の大学の先生ではなく、近い姿の学生の姿を見ることがキャリア教育として重要

スライド 17

## 高大連携接続プログラム

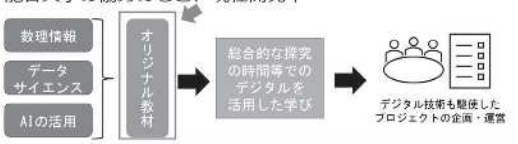
令和６年度実施計画　※開建高校キャリアウィークの一環として実施
１２月２４日・２５日　瀬田キャンパス・深草キャンパス
各学部提供の1.5日の探究学習プログラム

昨年度例
「日本の行事食・おせち料理（調理実習）」（農学部）
「風洞実験による翼型の性能評価」（先端理工学部）
「自然言語処理における英単語のベクトル表現」（先端理工学部）
「大学で学ぶとはどういうことだろうか？」（社会学部）

スライド 18

## 開建高校DXハイスクール事業

令和６年度「高等学校DX加速化推進事業」（DXハイスクール）の研究指定を受け、令和７年度入学生の１年生前期の教材を龍谷大学の協力のもと、現在開発中



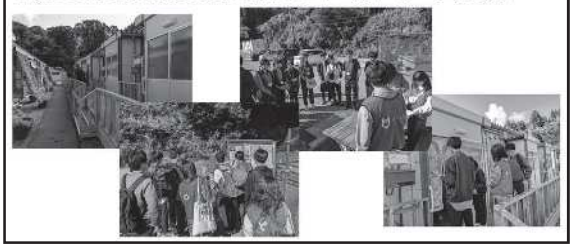

＜参考＞開建高校が目指すDX人材
デジタル技術やに関する知識やスキルを有し、社会を変える発想力と論理的思考を底支えするデータ活用スキルや思考スキル、プロジェクトをマネジメントするスキルを発揮して、新たな価値を創造し、社会で活躍・貢献できる人物

スライド 19

## 課外活動での連携

開建高校で以前から取り組んできた、
「防災ボランティアリーダー」龍谷大学の先生が指導

研究室の学生さんと共に、能登でフィールドワークを実施



スライド 20

## 龍谷大学主催行事への協力

夏のオープンキャンパス

8/3 sat 8/4 sun 8/24 sat 8/25 sun

10:30～16:00

テーマ「学びの探求」

Special Event

Open Campus
高大連携 特別授業

龍谷大学 反転授業

高大連携特別授業では、動画による事前学習・課題をもとに、当日の授業を実施。テーマ・学習内容等において、高校の代表として関わり、事業に協力。

スライド 21

## その他（検討中の事項）

○高校・大学が「探究」を軸に協働できることを検討
○高校・大学の７年間を通した学びのプログラムの検討
○高大連携事業を踏まえた、大学入学者選抜の方式

## 今後に向けて

大学
- ○大学教員のより効果的な支援の方法
- ○大学内の合意形成をいかに進めていくか
- ○新規連携事業における負担感をどう減らすか

高校
- ○連携事業を進める上での経費の捻出をどうするか
- ○大学任せにならない、教職員個人の意識づくりをどう進めていくか

スライド 22

## 京都市立開建高等学校との取り組み

RYUKOKU UNIVERSITY

✓ 高大連携協定に基づき、全学部が関わる取り組みとして、体系的な連携プログラムを実施。

✓ 実施するプログラムは、大学の普段の学修・研究内容とほぼ同様のものと、高校生向けに準備した講話などを組み合わせて実施。

| | |
|---|---|
| 目指す取り組み | ➢新時代を担う人材育成に応じたモデルケースとなりうる高大連携プログラムの構築。<br>➢高校と大学が相互の教育を理解し合い、緊密な連携を通じて、双方の教育力を高め合う。 |
| 今後の課題 | ➢様々な高校と高大連携が進んでいく一方、教員負担や運営体制、予算等、限りある資源の中で、持続可能な高大連携の在り方を模索。 |

開建高校
Kaiken High School

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 28